

子どもの見る両親像について
島根大教育 猪野椰子

目的 就業する母親の増加によって、家庭での父親母親の役割が曖昧になってきている。子ども達は、父親母親をどのような役割を果たしている人と見、又、どのような役割を期待しているのか。さらに、果たしている役割からどのようなイメージを抱いているのか明らかにすることによって、核家族の、母親が働く時代の親の役割を探ろうとした。

方法 県庁所在地の住宅地・商業地等を含む大規模小学校の5,6年生を対象に質問紙法によって行った。親の役割、イメージ、親への願望を求める質問から成り立っている。調査は、1991年9月に実施された。

結果 (1) 父親は家族の中心的存在であり、一緒に遊んだりスポーツをしてくれる存在であるが、勉強相手、具体的な世話や看病、しつけ、相談相手は母親である。(2) 母親が無職の家庭では母親が勉強を見てやり、家事をこなしているが、有職の家庭では、両親以外の人が協力している。(3) 父親には仕事熱心、強い、明るい、やさしいなど、母親には明るい、家庭的、話やすい、頼りになるなどのイメージを持っている。(4) 父親より母親は、口うるさいが子どもに理解と思いやりがあり家庭的で教育熱心であると見ている。反面、父親は母親より自分勝つてであるが強いと見られている。(5) 男の子は女の子より父親に対して厳しいというイメージを持っている。(6) 勉強を見るとか慰めるという役割を果たしている父親に対して思いやりがあり家庭的であるというイメージを持っている。というように、父親の果たしている役割とイメージとの間に若干の相関がみられた。(7) 厳しく叱る父親に対してやさしくしてほしいという願望が出された。